

二〇一九年九月六日

一つ灯に集ふ生活や夜の長し  
虫好きの少年声を聴きわけぬ  
初盆の膳を囲める郷訛り

うつぎ  
みづき  
素 秀

二〇一九年九月五日

潮だまり子供の顔と秋の空  
音弾むテニスコート  
の風は秋  
カルデラに響く棚田の  
落し水  
終ひ湯に時を忘れる  
虫時雨

素 秀  
ぽんこ  
うつき  
満 天

二〇一九年九月四日

飛蝗とる吾子の差し足  
忍び足  
大稲田揺らし疾駆す  
列車かな  
竹秋の古都駈け  
抜ける人力車  
広々と風遊びを  
る蕎麦の花  
ビル解体されて  
展けし秋の空

ぽんこ  
なつき  
智恵子  
宏 虎  
たか子

二〇一九年九月三日

起伏野の散歩コース  
や風は秋  
蔵のある屋敷街  
抜け稲田道  
古墳出て次の古墳  
へ草紅葉  
秋桜足に触れも  
すりフトかな  
結界を行き来して  
をる秋の蝶

こすもす  
せいじ  
ぽんこ  
はく子  
みづき

二〇一九年九月二日

白き顎のぞく編笠  
風の盆  
夜の更けて裏山  
いよよ虫浄土

たか子  
三 刀

二〇一九年九月一日

せせらぎの風湧く  
ところ赤とんぼ  
荒れ庭に抽んで  
咲く鶏頭花  
野放図に紫式部  
活かしてみる

みづき  
愛 正  
明日香

二〇一九年八月三十一日

朝顔の蔓が混線  
ゴーヤ棚  
一人居に千人力  
や虫すだく  
爽やかに退院を  
告ぐ主治医かな  
あるなしの風に  
まろびし芋の露

うつぎ  
うつき  
せいじ  
菜 々

毎日句会みのる選・二〇一九年九月八日